

9月1日は防災の日



9月1日は防災の日です。防災の日は、「1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災の教訓を忘れない」という意味と、この時期に多い台風への心構えの意味を含めて、1960年（昭和35年）に制定されたものです。

近年、国内外において阪神・淡路大震災や新潟県中越地震、中国・四川大地震など多くの被害が出る地震が数多く発生しています。また、南関東直下型地震や東海地震など、甚大な被害が予想される大地震が、近い将来発生する恐れがあると予測されています。

地震が発生したとき、被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をとることが極めて重要です。そのためには、皆さんが地震について関心を持ち、いざというときに落ちついて行動できるように、日頃から地震の際の正しい心構えを身につけておくことが大切です。

万が一大きな地震が発生したらどのような行動をとれば良いのか、地震に備えてどのような対策をすれば良いのか。地震発生時、発生直後、発生後、日頃の対策、それぞれのポイントをまとめました。

◆◆◆地震発生時の行動◆◆◆

身の安全を確保する！

- 地震の時は、机の下に隠れるなどして身の安全を図り、揺れがおさまるまで様子をみましょう。



◆◆◆地震発生直後の行動◆◆◆

落ちついて火の元の確認をする

- 火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をし、出火した時には落ちついて消火しましょう。

あわてた行動はけがのもと

- 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意しましょう。

窓や戸を開け出口を確保する

- 揺れがおさまったら、避難できるように出口を確保しましょう。



あわてて外に飛び出さない

- 屋外に避難する際に、瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくる恐れがあるので注意しましょう。

門や塀には近寄らない。

- 屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らないようにしましょう。倒れてくる恐れがあります。

◆◆◆地震発生後の行動◆◆◆

正しい情報を得て確かな行動を！

- 混乱した被災地では、不確実な情報や噂が飛び交う可能性があります。そのような情報に惑わされずに、ラジオやテレビ、消防署、警察署、市役所などから正しい情報を得ましょう。

確かめ合おう わが家の安全と隣の安否！

- 自分の家の安全を確認した後、隣り近所の安否を確認しましょう。

協力し合って救出・救護！

- 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を、みんなで協力し、救出・救護しましょう。

避難の前に電気・ガスの安全確認！

- 避難をする時には、ブレーカーを切りガスの元栓を締めて、火災発生を防止してから避難しましょう。

◆◆◆地震に備える日頃の対策◆◆◆

家具類の転倒・落下防止をしておこう

- 家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒や落下防止措置をしておきましょう。
- けがの防止や避難に支障のないように家具を配置しておきましょう。

けがの防止対策をしておこう

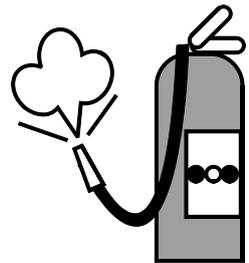
- 避難に備えてスリッパやスニーカーなどを準備しておきましょう。
- 停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておきましょう。
- 食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておきましょう。

家屋や塀の強度の確認をしておこう

- 家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておきましょう。
- ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないように補強しておきましょう。

消火の備えをしておこう

- 火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水の汲み置きをしておきましょう。



火災発生の早期発見と防止対策をしておこう

- 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置しましょう。
- 普段使用しない電気器具は、差込みプラグをコンセントから抜いておきましょう。
- 電気やガスに起因する火災発生防止のため感震ブレーカー、感震コンセントなどの防災機器を設置しておきましょう。

非常用品を備えておこう

- 非常用品は、置く場所を決めて準備しておきましょう。
- 車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用を考えておきましょう。

家族で話し合っておこう

- 地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておきましょう。
- 家族が離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておきましょう。
- 家族で避難場所や避難経路を確認しておきましょう。
- 普段のつき合いを大切にするなど、隣り近所との協力体制を話し合っておきましょう。



地域の危険性を把握しておこう

- 地域の防災マップに加えて、わが家の防災マップを作っておきましょう。
- 自分の住む地域の地域危険度を確認しておきましょう。

防災知識を身につけておこう

- 新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておきましょう。
- 防災に関する講演会等に参加し、過去の地震の教訓を学んでおきましょう。

防災行動力を高めておこう

- 防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身につけておきましょう。

家具類の転倒・落下防止策

【転倒・落下防止のポイント】

- ・転倒防止金具などで固定し、倒れにくくしておく。
- ・サイドボード、食器戸棚、窓などのガラスが飛散しないようにしておく。
- ・本棚や茶ダンスなどは、重い物を下の方に収納し、重心を低くする。
- ・棚やタンスなどの高いところに危険な物を載せて置かない。
- ・食器棚などに収納されているガラス製品（ビン類など）が転倒したり、すべり出したりしないようにしておく。



【具体的な固定方法】

- ・二段重ねの家具類は、上下を平型金具などで固定する。
- ・柱、壁体に固定する場合は、L型金具とモクネジで家具の上部を固定する。
- ・ガラスには、ガラス飛散防止フィルムを張る。
- ・吊り戸棚などの開き扉は、掛金などにより扉が開かないようにする。
- ・食器棚のガラス製品（ビン類など）が、転倒したりすべり出さないよう防止枠を設ける。

非常時に備えておく物

【非常持出品】

飲料水・携帯ラジオ・衣類・履物・食料品・マッチやライター・貴重品・懐中電灯・救急セット・筆記用具・雨具（防寒）・チリ紙など。

※両手が使えるリュックサックなどに、生活用品等必要なものを入れ、目のつきやすい所に置いておく。

【非常備蓄品】

地震後の生活を支える物。一人3日分程度（食料品等）

【停電に備えて】

懐中電灯・ローソク（倒れにくいもの）

【ガス停止に備えて】

簡易ガスコンロ・固形燃料

【断水に備えて】

飲料水（ポリ容器などに）

※1人1日3L目安

【防災準備品】

地震直後の火災や家屋倒壊に備える物

【火災に備えて】

消火器・三角消火バケツ・風呂の水の汲み置きなど。

【避難・救出に備えて】

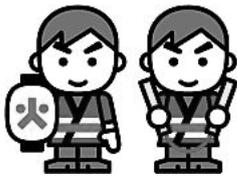
おの・ハンマー・スコップ・大バール・防水シート・のこぎり・車載ジャッキなど。



自分のまちは自分たちで守る!

1995年(平成7年)1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」は、死者6,433人、行方不明者3人、負傷者43,792人を出す大きな震災でした。家屋の下敷きになって救助を求める人たちや、火災が同時多発的に発生し、すべての現場に消防署員が出動する事が困難になってしまいました。そんな時に大きな力を発揮したのが、地域住民の力でした。

阪神・淡路大震災後、大規模災害時の地域住民による自主的な防災活動こそ、非常時において最大の効果を発揮することが明らかとされ、各地で『自主防災組織』や『消防団』等、地域住民での防災活動が重要とされています。



昨年8月30日に実施された茨城県・常陸大宮市の総合防災訓練には多くの地域住民が参加しました。

大規模災害発生時の消防の取り組み

国民の生命・身体・財産を守ることを任務とする消防本部は、法律に基づき、原則として、市町村単位で運営され、防災の啓蒙活動や災害現場活動など、住民の「安全・安心」を守っていますが、大規模災害や特殊な災害が発生したとき、被災地の消防本部だけでは対処できないことも想定されます。そんなとき、被災地の要請を受け全国の消防本部から応援部隊が駆けつけます。この応援部隊を「緊急消防援助隊」といい、地域を越えた消火・救助活動等を実施します。

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災を教訓に、全国の消防本部による応援を速やかに実施するため、平成7年度に創設されました。平成16年4月には、消防組織法により法律に基づいた部隊となり、平成20年10月現在では、全国の消防本部から3,961部隊が登録され、全国各地で発生している大規模災害に出動しています。

緊急消防援助隊は、指揮支援部隊・都道府県隊指揮隊・消火部隊・救助部隊・救急部隊・後方支援部隊・特殊災害部隊・特殊装備部隊・航空部隊・水上部隊と多岐にわたる精鋭部隊から構成されています。当市消防本部も消火部隊(水槽付ポンプ車)1隊、救急部隊(高規格救急車)1隊の計2隊が緊急消防援助隊として登録しており、茨城県隊の部隊として県内はもとより、県外への出動体制をとっています。

また、万が一、常陸大宮市に大規模災害が発生し、当市の消防力だけでは対処出来ないときにも、県内の消防本部をはじめ各都道府県の消防本部から緊急消防援助隊が駆けつけます。



緊急消防援助隊 消火部隊登録車両
(災害対応特殊水槽付ポンプ車 東消防署配置)



緊急消防援助隊 救急部隊登録車両
(高規格救急車 東消防署配置)